

雪の音

ゆき おと

Vol. 146

令和4年10月15日発行



巻頭言	北陸新幹線県内全線開業を見据えた 社会資本整備	石川県土木部長 鈴見裕司	1
特集	大河津分水通水100周年、関屋分水通水50周年 ～越後平野の発展を支えた信濃川の2つの分水路～	国土交通省北陸地方整備局 信濃川河川事務所 信濃川下流河川事務所	2
寄稿文	サケは河川漁業復活の 救世主となり得るのか	富山県農林水産総合技術センター水産研究所 所長 田子泰彦	6
ちょっと気になる コーナー	アフターコロナの海外旅行(最も近い国 韓国)	中越交通株式会社 常務取締役 山崎康裕	10
お知らせ	「白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬」開催報告	技術部会 建設環境委員会 広報部会 広報委員会	12
お知らせ	みんなできれいにせんまいけ! 大作戦2022 『身近なゴミ拾いで「世界で最も美しい富山湾」を守ろう!』	広報部会 広報委員会	14
お知らせ	令和4年度 北陸支部防災演習	災害対策部会 総務委員会	15
	会員名簿 役員・委員会名簿	事務局	18
	編集後記	古橋伸彦	

[題字]

元北陸地方建設局長
廣瀬利雄 揮毫

[表紙・裏表紙写真]

表紙
タイトル 久しぶりに太陽の光を浴びて
撮影地 新潟県東蒲原郡阿賀町地内
撮影者 猪俣孝之

裏表紙

タイトル 290号を走っていると
撮影地 新潟県五泉市地内
撮影者 猪俣孝之

巻 頭 言

北陸新幹線県内全線開業を見据えた 社会資本整備

石川県土木部長
鈴見 裕司



貴協会の皆様には、日頃より本県社会資本整備にご理解とご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

一昨年以来、能登地方では珠洲市付近を震源とする地震が頻発し、6月19日には平成19年の能登半島地震以来の震度6弱を観測する地震が発生しました。8月には小松市や白山市で観測史上最大となる24時間雨量を記録するなど、県内各地で記録的な豪雨となり、住宅の損壊や浸水被害のほか、河川や道路などの土木施設等に甚大な被害が発生しました。

県としては、一日も早い本格復旧に向けて全力で取り組んでいくとともに、県民の安全・安心の確保は最優先で取り組むべき課題であるとの認識のもと、大規模災害から県民の生命、財産を守るため、防災・減災対策の一層の充実・強化に万全を期してまいります。

ハード対策として、要となる緊急輸送道路の機能強化、抜本的な河川改修や即効性のある災害予防対策である河川の堆積土砂の除去、要配慮者利用施設周辺等での土砂災害対策に取り組んでいます。また、県民生活を支える社会基盤のメンテナンスについても怠りなく進めてまいります。

ソフト対策として、昨年度から県内約180の小規模河川の洪水浸水想定区域図の作成に着手し、来年度の梅雨時期までに作成することとしています。

また、新型コロナウイルス感染症は、2年以上にわたり、社会経済活動に大きな影響を与えており、北陸新幹線金沢開業により賑わっていた県内の人流に大きな変化が生じています。現在は、厳しい状況ですが、県内全線開業という「第2の開業」まで2年を切る中、開業効果を県内全域に波及させるため、

引き続き、交流基盤の整備や本県の個性を磨き上げる取り組みを着実に前進させていきたいと考えています。

広域道路ネットワークの整備については、「ダブルラダー輝きの美知」構想に基づき、のと里山海道の4車線化、金沢外環状道路海側幹線、加賀海浜産業道路などの幹線道路の整備を推進しています。このうち、11月に海側幹線Ⅳ期区間の山側2車線での暫定供用、南加賀道路の完成、令和4年度末までに、加賀海浜産業道路の手取川架橋区間の完成を目指し、鋭意工事を進めています。

さらには本県の個性ともいえるべき、歴史文化の魅力の磨き上げを進めている「金沢城公園」については、兼六園と並ぶ石川のシンボルとなる公園として、史実を尊重した本物志向の姿勢で復元整備を行い、昨年度より、金沢城復元の総仕上げとも言える二の丸御殿「表向」の復元整備に取り組んでいます。

現在、令和6年度の工事着手を目指し、御殿の正面である玄関や式台周辺の埋蔵文化財調査、建物の基本設計、障壁画の再現に向けた検討に取り組むほか、復元の気運醸成のため、情報発信も強化していきます。

最後になりましたが、8月の豪雨の時には、被災状況の確認、復旧に向けた調査設計にご協力頂き、おかげさまで国の災害査定を受けられましたことを重ねて御礼申し上げます。今後とも、一層の技術の研鑽を図り、本県の発展へご尽力いただくことをご期待するとともに、貴協会の益々のご発展を祈念いたします。

大河津分水通水100周年、関屋分水通水50周年 ～越後平野の発展を支えた信濃川の2つの分水路～

国土交通省北陸地方整備局 信濃川河川事務所 信濃川下流河川事務所

1. はじめに

信濃川流域の関係9市町村長、新潟県、国土交通省からなる「大河津分水通水100周年・関屋分水通水50周年記念未来につながる実行委員会」では、大河津分水通水100周年、関屋分水通水50周年を記念して多くの取組を実施しております。

これまで実施した分水講演会や8月10日に開催された関屋分水通水50周年記念式典、8月25日に開催された大河津分水通水100周年記念イベントについてご紹介します。

2. 分水講演会

川の豊かな恵みに感謝し、先人の遺業を讃えとともに、大河津分水、関屋分水が地域の皆さまにより深く理解され、未来につながることを願って本年2月から6月の間で、関係9市町村で「分水講演会」を開催しました。

既報では、第1回～第7回の模様をお伝えしましたので、本稿では第8回、第9回についてご報告します。なお、これらの分水講演会の模様は、YouTubeにアップロードされておりますので是非ご覧ください。

(1) 第8回分水講演会

三条市立第四中学校元校長 五十嵐一浩様を講師としてお迎えし、「川に学ぶ・ふるさとを知る ～そして真の防災教育を考える～」と題しお話しいただきました。新潟県における水害分野の防災教育実践例を交えながら、川の恵みと災いを学ぶことが郷土愛の醸成に貢献することを講演いただきました。

「ふるさとって何ですか」というテーマで来場された皆さんを3～4人のグループに分け、話し合う中で、防災という一つの観点ではなく川の恵みや災い、防災、ふるさと、これらを総合的に学ぶ体験をしていただきました(写真1)。

(2) 第9回分水講演会

新潟市歴史博物館 前館長である 伊藤祐之様を講師としてお迎えし、「2つの分水と新潟の発展」と題しお

話しいただきました。

大河津分水と関屋分水が新潟市にもたらした恩恵や、実現までのプロセスが与えた影響等を、歴史、文化、都市計画の観点から講演いただきました。

治水をめぐる利害と協同と調整として、松ヶ崎悪水吐と新潟町、新川の立体交差の意味について、大河津分水と関屋分水の2つの分水が新潟にとってどのような意味があるのかなど、様々なお話しいただきました(写真2)。



写真1 第8回分水講演会の様子



写真2 第9回分水講演会の様子

3. 関屋分水通水50周年記念式典

本年8月10日に通水50周年を迎えた関屋分水で記念イベントを開催しました。

(1) ゲートオープンセレモニー

新潟県知事（代理：新潟地域振興局長）、新潟市長、地元自治会、地元小学生を来賓に迎え、50年前の通水式を再現した、ゲートオープンセレモニーを実施しました（写真3、4）。



写真3 50年前の通水式の様子



写真4 ゲートオープンセレモニー



写真5 来賓からのお祝いメッセージ

また、ご来賓の皆様より色紙でお祝いメッセージをいただきました。「川でつながる、未来につなげる」のキャッチフレーズのとおり50年後の通水100周年に向け、橋渡しが出来たと考えています（写真5）。

(2) せきぶん誕生祭

ゲートオープンセレモニーに引き続き、関屋分水に親んでもらうとともに、関屋分水の誕生やその役割を知っていただけるよう、『せきぶん誕生祭』を開催しました。

当日は工事受注者にも協力して頂き、地震・降雨体験、はたらく車の展示、信濃川VR体験、水遊び体験（アクアプレイ）、せきぶんお絵かき、関屋出張所・新潟大堰特別開放、木造工作体験、ヘッドランド3Dビューワー体験などを実施しました。

天候に恵まれ、500名を超える方にご来場いただきました。特に普段は見ることの出来ない関屋出張所では、堰操作室の機器に、皆さん興味津々の様子でした。また、新潟大堰の特別開放は、受付開始後すぐに定員となり大人気でした（写真6、7）。



写真6 出張所操作室見学の様子



写真7 新潟大堰管理棟特別開放の様子

4. 大河津分水通水100周年記念イベント

本年8月25日に通水100周年を迎えた大河津分水では、記念イベントが開催されました。

(1) 第一部 ゲートオープン、記念文字

参加者全員で可動堰管理橋の上に集まり、カウントダウンの後に右岸側の第5号、第6号ゲートを解放しました。ゲートの開度は50cm程度と最小限ではありましたが、2門併せて毎秒100m³/sの放流となり、日頃は見ることのできない迫力のある景色と音を参加者の皆さんと味わいました(写真8)。その後は、工事連絡協議会の協力により高水敷上にICT施工で造りあげられた100の文字と記念撮影を行っています。(写真9)



写真8 ゲートオープンセレモニー



写真9 100の文字での記念撮影



写真10 分水中学生による学習発表会

(2) 第二部 学習成果発表会、吹奏楽の演奏会

続いて第二部では、燕市立分水中学校の1年生の皆さんから大河津分水にまつわる4つのテーマ(地域、観光、未来、防災)について、学習成果を発表していただきました(写真10)。

その後、同校の吹奏楽部による演奏が披露され、イベントに訪れた地域の方も素敵な演奏を楽しんでいただきました。

(3) 第三部 点灯式、メッセージ記入式

第3部では、燕市立分水小学校4年生の皆さんが製作した灯籠の点灯式を行いました。(写真11)

灯籠は、旧洗堰の管理橋上に設置し、可動堰、旧可動堰、洗堰とともにライトアップされました。

続いて、現在工事中的新第二床固改築工事で設置される予定の摩耗対策プレートに実行委員会の皆様から次の100周年に向けて大河津分水への思いを込めたメッセージを記入いただきました。(写真12) このメッセージの写真は、現在大河津資料館にて展示されています。



写真11 ライトアップ点灯式の様子



写真12 摩耗防止プレートへのメッセージ記入の様子

5. 流域を繋いだイベント

8月27日は休日ということもあり、大河津分水の恵みに感謝するサクスフェスタ（燕市）、関屋分水ミッションウォーク、やすらぎ堤など、大河津分水・関屋分水への感謝や川に親しむイベントが開催されました。それに合わせて、3つの会場をオンラインで接続し、2つの分水への感謝を込めた記念撮影を行っています。（写真13）

サクスフェスタでは、燕市PR隊鳥のつば九郎が1日河川事務所鳥に任命され、100周年記念植樹やにとこみえ〜る館の視察など事務所鳥としてPR活動に参加していただきました。

これまで、分水講演会や通水の日に式典等を開催して参りましたが、11月には実行委員会を務める自治体の小学生から、信濃川水系やその支川も含めた未来の川づくりについて学習成果を発表いただく「分水サミット」を企画しております。

さらに、12月にはこの1年間の集大成として未来に繋がる事業実行委員会の記念シンポジウムを開催することとしております。引き続き、大河津分水通水100周年、関屋分水通水50周年の一年を盛り上げてまいります。

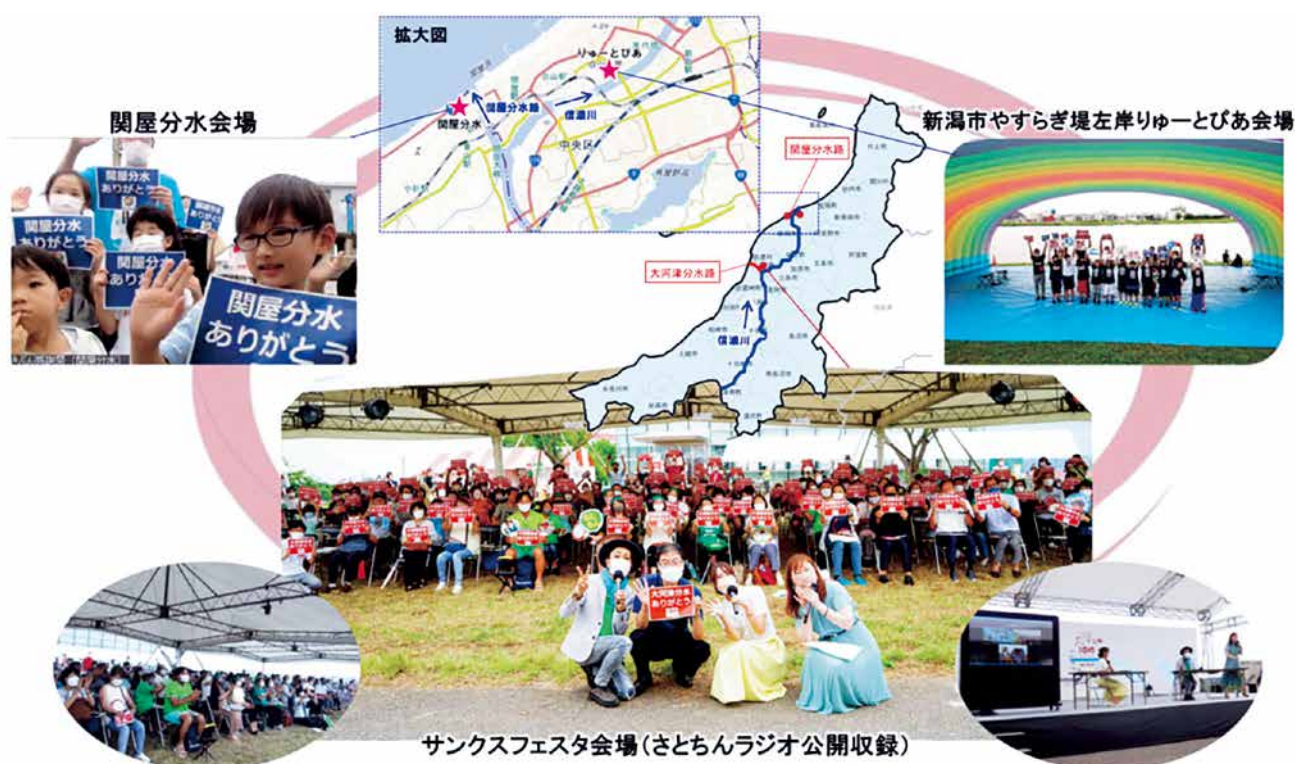


写真13 各会場をオンラインで繋ぎ記念撮影

記念事業の今後の予定・取組状況はコチラ



2022年、大河津分水は、
通水100年を迎えます。



2022年、関屋分水は、
通水50周年を迎えます。



大河津分水通水100周年・関屋分水通水50周年記念 未来につながる事業実行委員会

新潟市、長岡市、三条市、加茂市、見附市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、
新潟県土木部河川管理課、新潟・三条・長岡各地域振興局、信濃川河川事務所・信濃川下流河川事務所

サケは河川漁業復活の救世主となり得るのか

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 所長 田子泰彦

秋を告げるサケ

富山では、春を告げる魚がサクラマスなら、夏のそれはアユ、そして、秋はサケである。神通川や庄川でのサケの遡上時期は10～12月で、11月上旬頃が盛期である。現在、サケは増殖用の目的以外では、内水面での捕獲が水産資源保護法で禁止されている。増殖用の捕獲に関しては、小さな河川では、下流域に簾（ヤナ）を設置して一括して採捕することが多い。しかし、神通川のように流量の多い川では、本川では簾の設置が困難なため、昔ながらのオトリ漁や投網漁が行われていて、風情あるサケ漁の光景が今でもあちこちで見かけられる。ただ、少し前まで行われていた流し網漁は、それを行う漁業者がいなくなったので、行われなくなった。

これらの伝統漁法は、捕獲の効率という点では、簾に比べ、確かに悪いかもしれない。しかし、アユの釣り人がいなくなり、淋しくなり始めた川のあちこちで、再び活気をもたらしてくれる。オトリ漁では青いシートの簡易的なテントや小屋（最近は四輪駆動車も多い）があちこちに張られ（作られ）、地味な茶色系の色に染まりかけて暗くなった河原に、一気に明るさを取り戻してくれる。人間の本質的な喜びである魚を獲るという行為を楽しめ、伝統的な漁法を維持できるという点では、サケ漁は文化的な価値は十分にある。

人には、効率やお金だけでは動かない者もいる。私は川にはいつの季節にも人で賑わっていてほしいと思っている。そういう意味でもサケ資源は貴重で、内水面にはなくてはならない存在である。

川漁師の生活を支えたサケ

今でこそ、サケは増殖用の目的以外では、内水面での捕獲ができないが、昭和27年に水産資源保護法でその捕獲が禁止される前までは、サケは河川漁業における主要な魚種であった。グルメ食品に溢れた現在では、川で獲れたサケなど見向きもしない人が多いが、当時はサクラマスと同等に貴重で高価であった。

神通川誌（重杉俊雄著、富山漁協出版）に掲載されている神通川でのサケとマスの貫（3.75kg）当たりの単価



神通川上流域でのサケのオトリ小屋（上）と中流域での川舟からのサケ投網漁（中）。漁獲された雄のサケ（右）。



は、明治44年ではそれぞれ1.95円と1.41円、昭和元年では2.52円と2.70円、昭和15年では3.98円と4.45円とある。1尾当りの重さは、サケの方がマスよりも若干重いので、ほぼ同等の価格である。また、大門漁協史（大門漁協出版）には、大正10年の組合書記の月給は27円、事務員は20円で、店でのうどんのもりかけが10銭、米一升が1円の相場の時、庄川で獲れたサケは1尾2円、マスが3.3円とあるので、当時のサケやマスがいかに高価であったかが分かる。腕の立つ川漁師は、当時、1日10～20尾のサケやマスを連日獲っていたので、現在と違って、漁期間中の収入がいかに多かったのが推察できる。

北洋の海と森を繋ぐサケ

アユやサクラマスと同じくサケも海と川や森を繋ぐ魚である。海にいる期間は、アユでは約半年、サクラマスでは1年に対して、サケは2～6年であり、通し回遊魚の中でも最も長く海に生息している。回遊範囲も広い。アユは河口沿岸の数キロ以内、サクラマスはオホーツク海に対して、サケは遠く北太平洋のベーリング海まで回遊する。サケの稚魚はまるで、「可愛い子には旅をさせよ」と言わんばかりに、北洋への長旅を架せられ、幾多の危険を乗り越えて、健気に生まれた川に戻ってくる。サケこそは海のすべてを知り尽くし、大いなる海の幸を手土産に、故郷に凱旋してくれる孝行息子と言えるかもしれない。

北洋の幸が満載

サケ料理には塩焼き、味噌漬けなど、多彩なものがある。イクラは高級な食材として用途は多い。精巣も粕漬けにすると極めて美味である。頭も氷頭として酢の物にすると非常に美味しい。私は中でもサケ鍋が大好きである。寒さが身に沁みてきた季節に、暖かい部屋で、白菜や大根などの旬の野菜をたっぷり入れて、サケを鍋にする。酒を片手にサケを食べる幸せには格別なものがある。

変わったところでは内臓。かなり以前のことだが、当時庄川サケマス協議会の会長であった沼幸雄さんが、サケ祭りの会場で何かを焼いておられた。「何を焼いているのですか？」と聞くと、「サケの心臓と胃」だと言う。「田子さんも食べてみる？」ということで、食べてみたが両方とも十分にいける味だった。サケを神の使いと尊ぶアイヌの人は、サケの皮で衣服や靴を作ったというから、サケは捨てる場所がないと言われるのも十分に納得できる。まさに海の幸が満載された魚と言えよう。ただし、現在では法律で内水面での捕獲が禁止されているので、川で獲れた

サケの料理の話をして虚しさだけが残ってしまう。

陰りが見えるサケの増殖事業

図1に1996（平成8年）～2021年（令和3年）の富山県へのサケの年齢別の来遊尾数と放流尾数を示した。同期間における各年の海：川の漁獲比率は、1：1.02～4.69で川の方が多い。年齢は2～6年（川の漁獲魚で分析）で、4年魚が最も多く、次いで3年魚、5年魚の順となっている。来遊尾数は2015年（平成27年）までは、10万尾を超える年も多く見られたが、2016年以降には急激に減少し、2021年には14,491尾にまで減った。放流尾数は1996年（平成8年）～1999年（平成11年）には3千万尾を超えていたが、2000年（平成12年）以降には徐々に減少していき、2016年（平成28年）には2千万尾を切り、2021年（令和3年）には1千万尾を下回るようになった。

最近5年ほどのサケの来遊数の減少には、地球温暖化に伴う、北洋での海水温の上昇が早くなったことや海流の変化なども影響しているだろう。しかし、放流尾数の長期的な減少傾向に見られるように、行政にも、事業を実施している内水面漁協にも、かつての「カムバックサーモン」運動が叫ばれた時のような熱意は見られない。特にサケ事業による巨額の累積赤字に苦しむ漁協の状況は厳しい。加えて、サケ事業のために、多くの飼育池、飼育水、職員を使いながら、一般の組合員には何のメリットももたしていないというジレンマは大きい。このまま、法律などが見直されないなら、漁協は赤字を抱えたまま、サケ事業から撤退を余儀なくされるであろう。

サケの流し網漁が復活

2009年（平成21年）には62,997尾の回帰尾数を達成するなど、本州日本海側では随一のサケの捕獲尾数を誇った庄川では、設置・維持経費などが大き過ぎるという漁

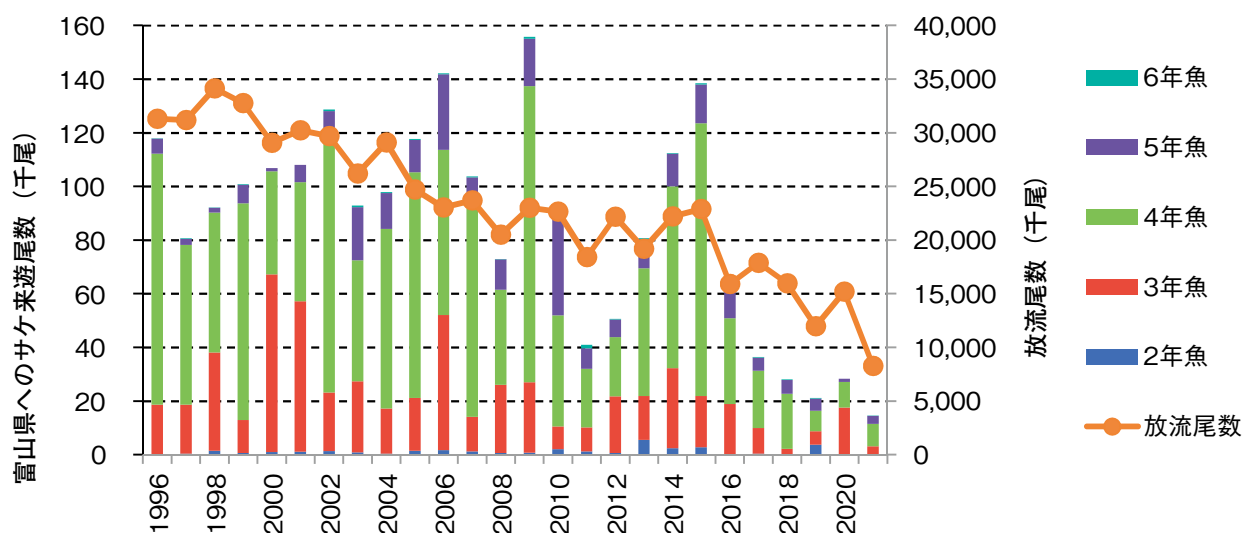


図1 富山県への年齢別のサケの来遊尾数と放流尾数の経年変化（1996-2021年）

協（庄川沿岸漁協連合会）の経済的な事情から、令和3年シーズンには、急遽、築（ヤナ）が設置されなかったことになった。漁協は遊漁者等による竿釣りだけで親魚の確保を試みようとしたため、サケ事業の継続に不安を抱いた富山県水産研究所は、行政の要請も受けて、網漁で、親魚の捕獲を支援した。

河口から5.5kmの地点に築が架からなくなった庄川では、中流域に大挙してサケが遡上するようになり、私たちは、時に、神通川の川漁師の指導を仰ぎながら、流し網漁や投網漁を行って、サケを捕獲した。また、私たちが網漁を行った水域に隣接した上下流では、遊漁者たちが釣りでサケの捕獲を試みた。サケの網漁は爽快であった。私もサクラマスの流し網漁に乗ったり、舟での投網漁の経験もあったので、サケの流し網漁では、網持ちも船頭もした。

流れて行く舟で網持ちをしていて、サケが網に当たると凄い衝撃を感じる。「掛かった!」という声が、辺りの空気の静寂を破り、網が慌ただしく揚げられ、二艘の舟が寄せられる。1回の揚網で、1~2尾掛かることが多いが、3~4匹掛かることもある。そうなると、舟の上は飛び跳ねているサケを網から外すのに戦場と化してしまう。網漁をしている人には高揚感が漲り、川そのものが躍動しているように感じられた。30年ぶりに庄川にサケ漁が復活したのである。

一昨年までなら、晩秋の庄川はただ淋しいだけの場所であったが、去年は釣りや網漁で人が集まり、活気に満ちた川となった。また、川の至る所でサケは産卵床を掘って産卵した。本来のサケの生活史、川の生態系も甦ったのである。私は10月下旬から12月上旬の間に、土日を含めて16日間もサケ釣りやサケ漁に従事した。サケとサケ漁に夢中になり、川の魅力に心底、魅了されてしまった。

ただ、網漁で捕獲したサケは212尾で、釣りでのそれは442尾に過ぎなかった。これでは、まともなサケ事業は運営できない。やはり築の捕獲能力は大きい。釣りと網漁と築を組合わせて、バランスの取れたサケの捕獲体制を取るべきと思われた。

食料危機の切り札

私の学生の頃にも食糧危機がすぐにでもやってくるとい話はいくつもあったが、政治が安定し、経済大国である日本には食糧危機どころか、今でも巷には食べ物が溢れかえっている。しかし、今年2月のロシアによるウクライナ侵攻は、世界の政治的な均衡を壊し、戦場となった世界の食糧庫であったウクライナの惨劇を見るにつけ、食料危機の到来は、現実味を帯びてきた。令和3年度の



庄川で約30年ぶりに復活したサケの流し網漁（上）と調査人による竿釣りで獲れたサケ（左）



日本の食糧自給率はカロリーベースで38%に過ぎない。実際、飼料穀物などの高騰などで、日本でも食料品の価格が上がり始めている。このうえ、中国と台湾との緊張関係がさらに緊迫の度を高めれば、世界の政治と経済は混乱し、食糧危機の到来は目前となるであろう。

日本がロシアに経済制裁を課している関係で、ロシアも日本に色々な制裁を課している。漁業においても、ロシアに近い海域などでは操業はできなくなる可能性もある。でも、たとえ、海で操業できなくてもサケは生まれた川に帰ってくるのである。

また、富山県では海よりも川での捕獲割合が断然高い。サケの増殖技術はほぼ確立されている。お金を掛ければ、掛けただけサケは帰ってくる。現在のサケ資源は、場合によっては、食料危機対策の切り札にもなりうる、貴重な資源なのである。

サケの街、新潟県村上市

サケの捕獲のための漁法に魅惑された私は、令和3年11月下旬の週末には、富山大学の高橋満教授（狩猟の法体系などが専門）らとサケの街、新潟県村上市を訪れていた。三面川でのサケの捕獲作業を見た私は面食らった。（これが同じ日本、そして隣県の川なのだろうか）と衝撃のあまり言葉も出ないくらいであった。

三面川では、築、流し網、刺し網、テンカラ釣り、竿釣りなど、サケを獲る漁法がいくつも存在し、それがバランスよく行使されていた。築に隣接する三面川鮭産漁協では、水揚げされたサケが、増殖に適するものと、適さないものにその場で選別され、増殖に適するサケは採卵、受

精させて、その卵は漁協内にある増殖施設に収容されていった。増殖に不適なサケは漁協で販売され、それを求める客に次から次へと買われていった。加工品も含めると、漁協のサケの売上高は数千万円にもなるとのことだが、それらをすべて増殖事業につぎ込んでも赤字になることが多いというから、やはりサケの増殖事業はどこでも厳しい状況にあると実感した。

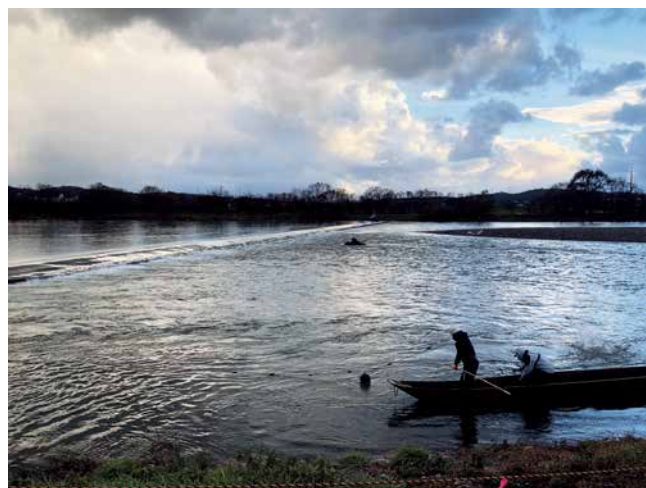
村上の街を見回ったが、どこでもサケの香りがした。昨年はコロナ禍でこの観光地も閑散としていたが、村上の街は、サケの加工品を求める観光客で賑わっていた。村上市にあるイヨボヤ（村上の方言でサケのこと）会館には江戸時代の村上藩から続くサケの漁法、加工品、増殖の歴史がリアルに綴られていて、見るものを魅了してくれた。村上市を視察した私は、漁協や地元の行政がしっかりした考えと信念を持てば、これからも、サケを漁協の活性化や地元産業の振興に活かせるし、そうして行かなければならないと思った。

サケは河川漁業復活の救世主となり得るのか

築に加えて、釣りや網漁などのサケ漁が拡大されれば、釣り産業の活性化や観光の振興など、地域に及ぼす経済効果は極めて大きい。また、現在の世界情勢では、食糧危機の切り札になる可能性も秘めている。さらに、人が川に来ることでカワウによるアユの産卵親魚の食害を防ぐことも期待される。内水面でのサケの利用の拡大は良いことづくめである。

富山県のサクラマス漁獲尾数は、千尾を大きく下回り、もはや風前の灯の状態にある。アユも毎年、好不漁を繰り返しながらも、長期的には資源状態はどんどん悪くなっている。そして、サクラマスもアユも、もう打つ手がない。しかし、サケは資源量は大きく、投資を増やせばまだまだ増やせる可能性がある。

人が集まるところには、運気が集まる。私は、川には1年中人が来て賑わって欲しいと願っている。春はサクラマス漁、夏はアユ漁、そして秋は、法律などの見直しにより、サケ漁が再開され、多くの人々に富山の川に来てもらい、1年を通して河川漁業が活性化することを夢見ている。



三面川に設置された築



三面川でテンカラ釣りを楽しむ組合員



人で賑わう三面川鮭産漁協



村上市内にあるサケ専門店での塩引き姿のサケ

ちょっと 気になる コーナー

「アフターコロナの海外旅行 (最も近い国 韓国)」

中越交通株式会社 常務取締役 山崎康裕



新型コロナウイルスの感染拡大が始まってから3年が経とうとしております。行動制限などが無い現在では、個人の旅行や国内旅行が徐々に回復してきております。しかしながら、海外旅行へのハードルは未だに高いのが現実です。私が最後に渡航したのが2020年2月末にハワイへ行きましたがその時は、東南アジアからの帰国者に対しては厳しい検疫がありました。が、ハワイからの帰国者に関しては、普通の検疫体制でした。(当時、ハワイでの感染者0名)それから1か月も経たない内に旅行どころか出張まで止まる状況へ進んで参りました。2022年に入り、徐々に海外出張などが動き出し、現在では多くの海外旅行が復活して来ております。海外旅行へは、行ける状況となりましたが様々な規制などがあります。そこで日本から最も近い「韓国」への観光旅行についてご案内いたします。参考にしてみてください。

【韓国旅行の事前準備】

以前は、様々な旅行会社が企画したパッケージ旅行(航空券+宿泊+送迎)に参加すれば、パスポート

さえ有れば簡単に旅行が出来ました。現在では、様々な規制や手続きなどが有る為、簡単に行けなくなっています。航空券や宿泊の手配を個人的に行う方は、特に下記の点をご確認ください。旅行会社に発注する方は、旅行会社に頼む事をお勧め致します。

韓国に行く場合、一時期は査証(ビザ)の取得が義務付けられましたが現在もK-ETA(電子旅行許可)を申請し、許可取得が必要となっております。また、Q-CODE(検疫情報事前入力システム)にて渡航者の情報を事前入力する事で韓国入国後の検疫手続きの短縮、簡素化となります。登録した方は、入国の際、健康状況質問書の記入も不要となります。

【日本出発当日】

今までは、出発の48時間以内に日本の医療機関等でPCR検査の陰性証明書が必要でしたが現在は、不要となりました。機内にて出入国カード、税関申告書を記入しておいてください。検疫、入国審査等が済みましたら出口へ、もし検疫で異常が見つかり検査の結果、陽性となった場合は病院などへ移送されますので



ご注意ください。(7日間隔離)

入国したとしても最後のハードルがあります。入国後1日以内(24時間)にPCR検査を受ける事が義務付けられております。ソウル市内のPCR検査センター(Seegene Medical Foundation)が便利ですが事前予約制なのでこちらは旅行会社が現地の知り合いにお願いした方が確実です。実費で9,000円程度ですが現地の旅行会社に代行予約をしてもらう場合は、1,000円程度予約手配料金が加算されます。

【現地では】

日本にいる時と同様に三密を避けて、手洗い、マスクで自分の身は自分で守りましょう。

【日本への帰国】

日本入国には、出発の72時間以内のPCR検査での陰性証明書が必要でしたが、9月7日以降はこの制度を撤廃し、ワクチン3回以上接種証明証がその代わりとなります。

韓国に限らず、世界各地からの日本への渡航者、帰国者の入国時の制限を緩和させるものです。

従って韓国では最低1回のPCR検査は必要で、万が一にも陽性反応が出た場合は、隔離措置が取られる為費用が発生致します。その費用をカバーするために必ず「海外旅行傷害保険」に加入する事をお勧め致します。

やはり、現状では、結構ハードルが高い状況です。こんな時に役に立つのが旅行会社です。旅行会社にご希望を伝えて、全てを手配してもらえば安心してご旅行が楽しめるのではないのでしょうか？

【ご注意】

記載内容は、9月15日以前の情報です。変更になる場合もありますので旅行の際は、お近くの旅行会社が該当するホームページを再度ご確認ください。

「白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬」 開催報告

〈技術部会 建設環境委員会・広報部会 広報委員会〉

1. はじめに

日本三大霊山の一つである白山は、日本有数の花の山としても知られており、約 250 種の高山植物が自生しています。しかしながら近年、オオバコをはじめとした低地性の外来植物が侵入し、白山固有の豊かな自然が危機に瀕しています。

こうした問題に対し、当協会では石川県との共催により平成 22 年度から継続的にオオバコの除去作業を行っており、本年度も 6 月 26 日（日）に実施しました。本項では、その報告を行います。

2. プログラム

- 1) 名称：白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬
- 2) 場所：石川県白山市市ノ瀬駐車場周辺
- 3) 日時：令和 4 年 6 月 26 日（日）13 時～ 16 時
- 4) 参加：協会員及びその家族 47 名、一般 60 名
- 5) 内容

- ①講義：白山におけるオオバコの影響と対策
- ②体験：オオバコ除去作業

3. 講義概要

まず、白山における外来植物オオバコの影響と対策について講義を行いました。講義内容は以下のとおりです。

(1) オオバコ（外来植物）が及ぼす影響

低地では身近な雑草として知られるオオバコは生命力が極めて高く、一旦、高山へ進入すると、外部から隔離された環境でひっそりと生育していた高山植物を駆逐し、美しい景観も損なってしまいます。また、高山植物の一つであるハクサンオオバコは低地性のオオバコと交雑が可能であるため、遺伝子汚染が起こってしまうことも問題となっています。

(2) オオバコ（外来植物）の侵入状況

石川県白山自然保護センターの調査によると、標高 2,000 メートルを超える南竜ヶ馬場や室堂周辺に

までオオバコが侵入していることが分かっています。オオバコの種子は、雨水等で濡れてしまうとゼリー状の粘液を出して他のものに貼り付く性質があり、登山者の靴や荷物・

自動車のタイヤ・ヘリコプターが運搬した物資などに付着したまま持ち込まれ、発芽し定着したと考えられています。



ハクサンオオバコ



オオバコ

注）ハクサンオオバコは、オオバコに比べ葉の表面に細かい毛があるのが特徴である。

(3) 対策

白山ではこれ以上のオオバコの分布拡大を防ぐため、登山道の各所に、種子除去用のマットやブラシの設置、駐車場のアスファルト舗装などが施されています。また、山小屋、登山道、登山口において、毎年多くのボランティアの協力を得て、オオバコ等外来植物の除去作業を実施しています。



種子除去用のマットと看板の設置

(4) オオバコ（外来植物）の除去方法

オオバコの除去作業は、「根切り」と呼ばれる専用

の道具を用いて行います。根切りによってオオバコの生長点を含めた地上部のみを切除することで、山岳地において貴重な土壤にできるだけダメージを与えずにオオバコを除去することができます。根まで掘り返してしまうと、掘り返したところの土壤が雨水等で流れてしまうため、被害を最小限に抑えるためにもこの方法で除去を行います。



オオバコの除去方法
NPO法人 環白山保護利用管理協会 提供

4. 体験概要

以上の講義を受け、参加者は実際の除去作業に挑みました。当日は天気にも恵まれ、初夏の涼風吹くなか、参加者は黙々とオオバコを除去していました。



講義の様子

オオバコでいっぱいになったゴミ袋は、白山自然保護センターで重量を測定したのち、処分しています。本年は107名（前年度比：+33名）と多くの参加者があつたため、73.9kgも除去することができました。このように継続的にオオバコを減らしていくことができれば、オオバコを根絶する日も近いのかもしれません。オオバコの除去作業を通じて、外来植物は在来植物や景観にどのような影響を及ぼすのか、という点を多くの方に知っていただき、今後どのような対策をしていかなければならないのか、あるいは侵入を防ぐために何をしていかなければならないのか、ということを考えるきっかけになればと思います。



除去作業の様子

5. おわりに

白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬は、平成22年度から当協会が参加し、本年で12年目となります。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、除去作業が中止となってしまった年もありますが、昨年から再開することができ、嬉しく思っています。また、参加いただいている皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。この作業は小さい子供も参加しており、今はまだ「なぜこのような作業をしているのか」を理解していないかもしれませんが、この意味や重要性が分かったときに、次世代へ広げつなげていってほしいと願っています。

当支部では、これからも継続して実施していきたいと考えていますので、白山の景観や生態系を守っていくためにも、協会の更なる参加を期待しています。



集合写真

お知らせ

みんなできれいにせんまいけ！ 大作戦 2022 『身近なゴミ拾いで「世界で最も美しい富山湾」を守ろう！』

〈広報部会 広報委員会〉

講習会の概要

建設コンサルタンツ協会北陸支部の富山地区会員は、令和4年7月3日に富山県高岡市松太枝浜で実施された「みんなできれいにせんまいけ！ 大作戦2022」に今年初めて参加し、海岸特別清掃活動に取り組みました。

今年の大作戦は、富山県、市町村、富山県環境保健衛生連合会、各市町村環境保健衛生協議会、(公財)とやま環境財団、富山県県土美化推進県民会議が主催となり、様々な企業と団体、市民が協働し、『身近なゴミ拾いにより「世界で最も美しい富山湾※1」を守ろう！』富山県の海岸に流れ着くごみの「8割」が県内で発生し、川から海に流れ出たものだと知っていますか？ 一人ひとりができることを始めてみましょう！』を合言葉に開催されました。

例年6月から9月に県内市町村で開催、特別清掃は年1回実施されており、今回は高岡市で行われました。

この日は、新田八朗富山県知事や角田悠紀高岡市長、美しいまちづくり高岡市民連絡会議関係団体、とやま海ごみボランティア部、近隣の高岡市立太田小学校の子供たちを含む約1,000人が参加し、建設コンサルタンツ協会からは、富山地区会員の17人がコロナ対策を徹底し活動に参加しました。会員は、朝8時から雨晴海岸～松太枝浜までの区間で海岸に漂着した大きな流木から、細かなプラスチックごみに至るまでの清掃活動に汗を流しました。

今回の活動に参加した会員からは、「コロナ禍により、このような協会活動は約3年振りの開催であり、日頃から県内のインフラ整備に携わる1団体として、社会貢献活動の一環で参加できてよかった。来年もできれば参加したい。」という声が聞かれました。

今後は、近年全国各地で発生している自然災害、異常気象への対策やインフラ整備の重点施策である国土強靱化、防災・減災対策、老朽化対策など建設コンサルタントに求められる役割が非常に重要であることを自負しながら、コロナ禍ではありますが、このような活動・取組を通じて建設コンサルタント業をより多くの方に認識して頂けるよう、これまで以上に多くの活動を推進していきたいと感じました。

以上

※1「世界で最も美しい湾クラブ」とは。。。。

「湾を活かした観光振興と資源保護、そこで暮らす人々の生活様式や伝統の継承、および景観保全」を目的に、1997年3月10日にドイツのベルリンで設立され、フランスのヴァンヌ市に本部を置くNGOである。

日本では、富山湾（富山県）、松島湾（宮城県）、駿河湾（静岡県）、京都宮津湾・伊根湾（京都府）、九十九島湾（長崎県）が加盟している。



※清掃活動に取り組む会員



※参加者による集合写真

お知らせ

令和4年度
北陸支部防災演習

〈災害対策部会・総務委員会〉

1. はじめに

令和4年8月3～4日にかけての大雨は、新潟県や石川県で甚大な被害をもたらしました（新潟県関川村下関観測所 1時間 149mm、24時間雨量は新潟県内観測史上最高となる 560mm）。建設コンサルタンツ協会北陸支部では、北陸地方整備局、新潟県からの災害協定に基づいた応援要請を受け、この対応中ではありましたが取り組みの重要性を考慮して北陸支部防災演習（以下、「支部演習」と略す。）を実施しました。

本稿では支部演習について整理致します。

①日時：令和4年9月1日（木）8：30～11：30

※同日の13時から15時は建コン協本部による災害時対応演習を実施。

②場所：興和ビル10階 会議室（新潟市中央区）

③参加関係機関：

- ・国土交通省北陸地方整備局防災室（以下、「北陸地整」と略す。）
- ・（一社）全国測量設計業協会連合会北陸地区協議会（以下、「全測連北陸」と略す。）
- ・（一社）全国地質調査業協会連合会北陸地質調査業協会（以下、「全地連北陸」と略す。）

④参加者

〔北陸現地本部〕寺本支部長、渡邊運営委員長、高橋技術総括指揮者、坂上副責任者、青木総務部会長、清原総務委員長、佐藤（浩）委員、佐藤（雄）委員、浜辺委員、今野委員
〔富山〕古池技術総括指揮者
〔石川〕西川副責任者、〔事務局〕佐々木事務局長
〔UAV映像の現場対応〕全測連北陸

2. 演習のポイント

演習は、初動時の情報伝達とオンラインによる関係機関との情報共有を主眼において実施しました。

(1) 昨年度演習の課題対応

①添付ファイルを無くしたメールの送受信

昨年度の演習では、会員会社への被害状況や調査派遣対応の確認はメールによる添付ファイルで確認して

いた。しかし、会員会社からの返信ではパスワード付き添付ファイルで送信する会社が多く、開封に手間を要する状況となった。そこで、今年度は添付ファイル無しとしてメール文に直接連絡・回答する方法で取り組むこととした。

②携帯電話メールの活用

正・副の災害担当責任者は、外出している場合や会議中等の場合でもメールを確認できるように携帯電話メール（アドレス連絡者に限る）へも発信することとした。

(2) オンラインによる関係機関等との情報共有

①合同現地踏査の実施

北陸地整からの応援要請に基づき、信濃川本線下流部の八千代橋から昭和大橋間でのUAV空撮について、全測連北陸から現地に出勤してもらい実施する。その際、UAV映像をオンラインにてLIVE配信し、北陸地整、全測連北陸、全地連北陸、現地本部関係者がリアルタイムで現地状況を共有する。天候不良で飛行できない場合は、予め撮影した映像を現地からオンラインで配信する。

②合同会議

応援要請を受け、建コン協北陸支部、全測連北陸、全地連北陸の分担確認や富山・石川の技術総括指揮者等からの各県での連絡状況報告などを行う。



写真-1 現地本部での本部長・運営委員長

3. 演習スケジュール

主なスケジュールを表-1に示します。

表-1 スケジュール

時分	項目	情報伝達	
		発信者	受信者
6:00	地震発生	長岡平野西縁断層帯 M w 7.5 の地震発生	
8:30	支援要請	北陸地整	新潟技術総括指揮者
8:40	参集確認	新潟技術総括指揮者	支部長
	関係機関への要請	新潟技術総括指揮者	全測連北陸
8:45	参集連絡	新潟技術総括指揮者 総務部会長	支部長、運営委員長、 総務部会長、新潟副責任者、 新潟総務委員
9:15	北陸支部会議	北陸支部にて現地本部設置に関する協議	
9:20	災害対策北陸現地本部設置	現地本部（事務局）	支部会員会社・ 災害対策委員
			富山・石川の技術総括指揮者・ 副責任者
			北陸地整
			全測連北陸、全地連北陸
～9:25	要請内容の詳細連絡	北陸地整	現地本部（新潟副責任者）
	要請内容の共有	新潟技術総括指揮者	現地本部
9:25	会員会社の状況把握	現地本部（新潟副責任者）	新潟の正・ 副災害担当責任者
		富山・石川の技術総括指揮者 又は副責任者	富山・石川の正・ 副災害担当責任者
9:30	関係機関への要請	現地本部（現地本部長、 新潟技術総括指揮者）	北陸地整、全測連北陸、全地連北陸、富山・石川の技術総括指揮者又は副責任者
9:35	映像による合同現地踏査		
10:25	会員会社の状況報告 【要請から1時間経過時】	総務部会長	現地本部
		富山・石川の技術総括指揮者 又は副責任者	
10:35	関係機関からの報告 支部対応可能会社の報告	全測連北陸、全地連北陸	現地本部
		総務部会長	
11:00	支援要請に対する報告	現地本部（新潟技術総括指揮者）	北陸地整
11:25	会員会社の状況報告 【要請から2時間経過時】	総務部会長	現地本部
		富山・石川の技術総括指揮者 又は副責任者	
【災害発生より90日経過を想定 令和4年12月1日】			
11:30	災害対策北陸現地本部解散	現地本部（事務局）	支部会員会社・ 災害対策委員
			富山・石川の技術総括指揮者・ 副責任者
			北陸地整
			全測連北陸、全地連北陸

※「項目」の網掛け部はWEBによる取り組みを示す。

（信濃川本線下流部）に出動してもらいました。当日は雨で UAV 飛行が無理であったため、撮影していた映像を現地から配信してもらいました。



写真-2 全測連北陸による現地の様子

(3) 昨年度演習の課題対応

添付ファイルではなくメール文だけによる対応に変更した結果、現地本部での確認や集計作業はとても速やかに行うことができた。但し、メール件名に社名を記載してもらうことにしていたが、表-2で示す通り未記載の会社があった。

表-2 地区別の社名未記載の状況

	新潟地区	富山地区	石川地区
メール件名に会社名未記載	5社 / 43社	4社 / 11社	0社 / 7社

会員会社からの1時間以内返信は95%、2時間以内返信で100%になり、近年では初めて全社から回答を得ることができた。

4. 演習の結果について

(1) 参集・北陸現地本部設置

会議室に9:15までに参集し、現地本部設置に関する協議を行い、9:20に災害対策北陸現地本部を設置しました。



写真-1 災害対策北陸現地本部の様子

(2) 北陸地整からの支援要請

北陸地整から、電話とメールにより要請を受けました。このうち、UAVによる被災状況把握を速やかに実施すべく、建コン協北陸支部から全測連北陸に連絡して現地

表-3 地区別の返信状況

	対象会社	返信時間別の状況		計
		1時間以内	1時間を超え2時間以内	
新潟地区	43社	42社	1社	43社
富山地区	11社	11社	0社	11社
石川地区	7社	5社	2社	7社
合計 [返信率]	61社	58社 [95%]	3社	61社 [100%]
参考:R3年度 [返信率]	61社	51社 [84%]	9社	60社 [98%]

(4) オンラインによる関係機関等との情報共有

現地からオンラインにて映像を配信したところ、通信障害などなく、支障なく映像を確認することができた。また、北陸地整には普段と異なるWEB会議システムに参加してもらったが、こちらについても支障なく確認してもらうことができた。



写真-3 関係機関を交えたオンラインによる合同現地踏査

北陸地整統括防災官から「UAV 映像の共有は速やかに現地状況を確認できるので非常によかった。災害時は、河川の状況だけでなく、俯瞰的に周辺の交通や建物などの現地状況を広く把握できると良いと感じた。今後は、最初に UAV の高度を高くして周辺も含めて全体を俯瞰的に映してから細かな場所の撮影をするなどしてはどうか。」という助言をいただいた。

なお、全測連北陸、全地連北陸等との合同会議でも支障なくオンラインにて実施することができた。



写真-4 合同現地踏査のオンライン画像

5. 課題

今回の演習では大きな課題はなかったものの、災害担当者責任者が外出中でも連絡内容を確認できるように携帯電話メールにも送信することを試みた。

この結果、携帯電話メールから返信した人が1人（富

山地区）おり、効果が確認された一方、表-4で示す通り、現地本部から携帯電話への送信エラーが計9人あった。

これは、送信側の点ではアドレス違い、受信側の点では迷惑メール設定などにより生じたエラーであると考えられる。そのため、送信側では再度のアドレス確認、受信側では会社 PC からのメール転送やシステム等の設定変更など、それぞれで可能な策がある場合は対応を講じてもらうようにアナウンスしたい。

表-4 携帯電話メールへの連絡者について

	携帯電話メールアドレス連絡者			送信エラー
	災害担当責任者(正)	災害担当責任者(副)	計	
新潟地区	33人	30人	63人	7人
富山地区	9人	8人	17人	2人
石川地区	7人	7人	14人	0人

※会社 PC から携帯電話へのメール転送者は除く

6. 総評

演習終了後、寺本支部長から

- ・今回の防災演習は、関係機関と連携してより実践に近い内容を行った。
- ・この取り組みを通じて、関係機関との連携の重要性を再確認した。
- ・UAV 映像の配信により、関係者がオンラインにて同時に現地状況を確認することができたなど、DX による合同現地踏査でもあった。
- ・頻発している災害対応では、このような技術を用いながら、引き続き、迅速かつ的確に対応していく必要がある。

という総評がありました。

7. おわりに

最後になりましたが、災害対応で忙しい中にも関わらず北陸支部の防災演習に参加していただきました北陸地方整備局防災室、(一社)全国測量設計業協会連合会北陸地区協議会、(一社)全国地質調査業協会連合会北陸地質調査業協会、そして全測連北陸からの要請により現地に出動していただきました(株)SKプランニングの皆様にも多大なるご協力を頂きましたことを、本誌面をお借りして感謝申し上げます。

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

会 員 名 簿

令和4年10月1日現在

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
朝日航洋(株)	新潟支店	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計(株)		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測(株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
(株)アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ(株)		920-0362 金沢市古府2-76	076-248-4004 076-248-4174
いであ(株)	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル8F	025-241-0283 025-243-5650
(株)エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
エヌシーイー(株)		950-0954 新潟市中央区美咲町1-7-25	025-285-8540 025-285-3531
応用地質(株)	北信越事務所	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
大原技術(株)		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
(株)オリエンタルコンサルタンツ	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟4F	025-244-7881 025-244-7387
開発技建(株)		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
(株)開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質(株)	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
基礎地盤コンサルタンツ(株)	北陸支店	950-0925 新潟市中央区弁天橋通1-2-34 尾山ビル	025-257-1888 025-257-1880

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
北建コンサル(株)		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987
(株)キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002
(株)協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
(株)協和コンサルタンツ	新潟営業所	940-0061 長岡市城内町3-8-7 蒼柴ビル801	025-889-8302 025-889-8304
(株)クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
(株)クレアリア	北陸支店	950-0973 新潟市中央区上近江2-9-19 レジデンス近江101	025-288-6893 025-288-6894
(株)建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
(株)建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル7F	025-285-6437 025-280-9750
建設技研コンサルタンツ(株)		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
(株)建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 メットライフ新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
(株)構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業(株)	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
(株)国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術(株)	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1	025-260-2245 025-260-7522
五大開発(株)		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
サンコーコンサルタント(株)	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558
(株)新日本コンサルタント		930-0857 富山市奥田新町1-23	076-464-6520 076-464-6671
相互技術(株)		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
大日本コンサルタント(株)	北陸支社	930-0029 富山市本町3-21 損保ジャパン富山ビル	076-415-7800 076-415-7795
(株)ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山4-1-24	025-234-2110 025-234-2111
館下コンサルタンツ(株)		939-3553 富山市水橋的場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発(株)	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
(株)長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
(株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776
(株)ティーネットジャパン	北陸支社	951-8061 新潟市中央区西堀通6番町866 NEXT21ビル	025-226-4330 025-226-3033
(株)東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ(株)	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナインビル8F	025-246-1827 025-246-7463
(株)東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曾根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
(株)東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁212-1	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント(株)		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
(株)ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区綱川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
(株)日本インシーク	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 明治安田生命新潟駅前ビル5F	025-246-1320 025-247-3740

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887
日本工営(株)	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
(株)日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
(株)ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21 4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ(株)	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3 6F	025-247-1341 025-246-1005
(株)パスコ	新潟支店	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 メットライフ新潟テレコムビル5F	025-243-0051 025-241-8654
(株)プラネット・コンサルタント		920-0017 金沢市諸江町下丁372	076-255-0630 076-255-0672
北電技術コンサルタント(株)		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント(株)		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント(株)	北陸事務所	951-8067 新潟市中央区本町通7番町1153 新潟本町通ビル	025-224-1285 025-224-1286
(株)村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
(株)村尾地研		939-8262 富山市塚原150	076-429-2511 076-429-2603
明治コンサルタント(株)	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニアリング(株)	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
(一社) 北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
(一財) 新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

役員・委員会名簿

令和4年10月1日現在

北 陸 支 部 役 員			
支部理事	支部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副支部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	副支部長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	副支部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	運営委員長	渡 邊 雅 樹	開発技建(株)
〃	運営委員	黒 木 康 生	(株)日本海コンサルタント
〃	運営委員	瀬 川 光太郎	(株)建成コンサルタント
〃	運営委員	末 武 晋 一	日本工営(株)
〃	運営委員	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
〃	運営委員	齊 木 勝	(株)キタック
〃	運営委員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
支部監事	支部監事	高 堂 景 寿	相互技術(株)
〃	支部監事	佐々木 大 介	(株)ナルサワコンサルタント

対 外 活 動 部 会			
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
	部会員	大 平 豊	エヌシーイー(株)
	部会員	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
	部会員	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	部会幹事	坂 上 悟	開発技建(株)
	部会員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
	部会員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
	部会員	渡 部 長 務	エヌシーイー(株)
	部会員	酒 井 大 助	八千代エンジニアリング(株)
新潟地域委員会	委員長	齊 木 勝	(株)キタック
〃	委 員	折 笠 昇	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	田 邊 敏 夫	(株)クリエイティブセンター
〃	委 員	岩 澤 弘 和	(株)構造技研新潟
〃	委 員	吉 田 茂	開発技建(株)
〃	委 員	坂 西 和 也	エヌシーイー(株)
富山地域委員会	委員長	柴 田 聡	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	竹 腰 直 治	北建コンサル(株)
〃	委 員	吉 田 勉	(株)上智
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	榮 知 之	北陸コンサルタント(株)
石川地域委員会	委員長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	二 俣 秀	(株)国土開発センター

総務部会			
	部会長	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
総務委員会	委員長	清 原 宏 二	開発技建(株)
〃	委 員	佐 藤 浩	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	佐 藤 雄 一	(株)構造技研新潟
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	浦 正 光	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	浜 辺 良 彦	相互技術(株)
〃	委 員	今 野 健	エヌシーイー(株)
倫理・法令委員会	委員長	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
〃	委 員	田 崎 友 康	開発技建(株)
〃	委 員	青 木 秀 典	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	櫻 井 英 二	(株)国土開発センター
〃	委 員	河 原 健 二	(株)日本海コンサルタント

技術部会			
	部会長	神 田 和 久	開発技建(株)
統括技術委員会	委員長	藤 巻 智 之	開発技建(株)
〃	委 員	真 嶋 利 寿	エヌシーイー(株)
〃	委 員	大 塚 秀 行	(株)キタック
〃	委 員	杉 野 亨	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	池 潤 稔	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	安 藤 正 幸	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	加 藤 毅	(株)クリエイティブセンター
〃	委 員	高 橋 辰 夫	(株)開発技術コンサルタント
河川・砂防委員会	委員長	須 田 玲	エヌシーイー(株)
〃	委 員	阿左美 敏 和	(株)建設技術研究所
〃	委 員	西 川 幸 成	(株)国土開発センター
〃	委 員	浜 谷 智	五大開発(株)
〃	委 員	太 原 晶	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	伊 藤 信 哉	開発技建(株)
〃	委 員	金 子 幸 生	相互技術(株)
〃	委 員	伊 藤 正 喜	(株)開発技術コンサルタント
道路委員会	委員長	木 村 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	須 佐 慎	開発技建(株)
〃	委 員	吉 田 要	(株)クリエイティブセンター
〃	委 員	森 将 恒	(株)キタック
〃	委 員	木 下 裕 康	(株)国土開発センター
〃	委 員	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	藤 本 勇 一	(株)東洋設計

橋梁委員会	委員長	初 鹿 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	田 村 康 裕	開発技建(株)
〃	委 員	渡 邊 敦	エヌシーイー(株)
〃	委 員	大 竹 滋	(株)キタック
〃	委 員	南 雲 浩	(株)構造技研新潟
〃	委 員	浦 修 造	(株)国土開発センター
〃	委 員	鷹 西 輝	(株)東洋設計
〃	委 員	寺 田 直 樹	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	塚 嶋 雅 則	東京コンサルタンツ(株)
トンネル委員会	委員長	今 度 充 之	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	須 貝 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	麻 田 正 弘	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	松 尾 内 助	(株)キタック
〃	委 員	長谷川 哲 也	サンコーコンサルタント(株)
〃	委 員	辻 本 勝 彦	(株)国土開発センター
都市計画委員会	委員長	岩 渕 和 有	エヌシーイー(株)
〃	委 員	飯 田 雅 之	開発技建(株)
〃	委 員	莊 司 洋 文	(株)キタック
〃	委 員	森 川 大 輔	(株)国土開発センター
〃	委 員	酒 井 信 次	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	埴 正 浩	(株)日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	竹 内 聡	開発技建(株)
〃	委 員	稲 葉 弘 之	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	若 尾 明 弘	エヌシーイー(株)
〃	委 員	竹 野 茂 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	西 暢 人	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	辰 橋 浩 二	(株)国土開発センター
〃	委 員	山 井 壮 志	大原技術(株)
若手技術者ワーキンググループ	リーダー	村 田 亨	開発技建(株)
〃	サブリーダー	中 野 達 也	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	濱 田 康 行	(株)国土開発センター
〃	委 員	一 噌 真佐志	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	石 丸 俊太郎	(株)キタック
〃	委 員	杉 田 友 樹	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	本 間 千 悠	(株)構造技研新潟
〃	委 員	佐久間 佑 多	相互技術(株)
〃	委 員	飯 野 美 樹	エヌシーイー(株)

広 報 部 会			
	部会長	熊 倉 孝 次	(株)クリエイトセンター
広報委員会	委員長	高 橋 宏 明	開発技建(株)
〃	委 員	飯 田 互	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	石 塚 英 洋	エヌシーイー(株)
〃	委 員	新 保 和 広	相互技術(株)
〃	委 員	本 間 健太郎	(株)ナルサワコンサルタント
〃	委 員	國 兼 功	八千代エンジニアリング(株)
〃	委 員	諏 訪 浩	日本工営(株)
〃	委 員	坂 原 徹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	大 蔵 欣 司	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	島 由 治	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	新 家 哲 平	(株)国土開発センター
会誌編集委員会	委員長	齋 藤 浩 幸	(株)キタック
〃	委 員	長 田 宏 之	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	古 橋 伸 彦	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	藤 井 和 行	(株)構造技研新潟
〃	委 員	太 田 博 昭	(株)国土開発センター

災 害 対 策 部 会			
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
新潟現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	技術総括指揮者	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	副責任者	坂 上 松 則	開発技建(株)
富山現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	技術総括指揮者	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	副責任者	青 木 秀 典	大日本コンサルタント(株)
石川現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	技術総括指揮者	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	副責任者	西 川 幸 成	(株)国土開発センター
災害対策委員会	委員長	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	委 員	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
〃	委 員	坂 上 悟	開発技建(株)
〃	委 員	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	増 山 繁 雄	北陸コンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント

事 務 局			
	事務局長	佐々木 清 一	

編集後記

9月のシルバーウィーク前半に日本列島を縦断した台風14号。日本列島の南部で発生した後に西へ時速15kmという遅い速度で進み、付近にあった湿った空気の塊を取り込んで次第に勢力を増し大型台風に発達しました。その後鋭角に進路を変えて、日本を北上しました。全国で暴風雨の影響が出ましたが、特に九州地方に大きな被害をもたらしました。

天気予報でよく見る台風の進路図では進むほどに「予報円」が大きくなりますが、台風の大きさや強さを表すものではなく、台風の中心が70%の確率で入ると予想される範囲だそうです。ですから、狭ければ予報精度が高く広ければ低い、ということですね。

「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言ったもので、台風一過の後はフェーン現象で真夏日のような暑さだったのにその翌日には20℃以下の気温になり、寝具や服装に迷う気候になりました。くれぐれも体調管理にはご自愛いただきたいです。

これから北陸地方は雪の季節が待っています。今年は太平洋赤道あたりの海面水温が例年より低い「ラニーニャ現象」の傾向ですが、そういう年は厳冬が多いそうです。天候には逆らえませんので日頃の備えには今一度配慮したいものです。

古橋伸彦

発行／一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長／齋藤浩幸

委員／長田宏之 古橋伸彦 藤井和行 太田博昭



発 行

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階

TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371

<https://hr-jcca.jp/>